



平成30年度の実績に係る キャンパス経営力評価ヒアリング

飯田キャンパス

飯田キャンパス長 山下英俊

年度目標① 山形県コホート研究の遺伝子解析、拡大コホート追跡データによる研究を遂行し、関連論文数30編以上を目指す。

達成状況① 山形県コホート研究の関連論文31編を発表した。また、3,348名の二次調査を実施した。

①山形県コホート研究の関連論文31編を発表した。主な内容は、生活習慣、心血管疾患、眼科疾患、歯科疾患との関連である。(平成29年度 22編)

②平成30年度には3,348名の二次調査を実施し、食事生活習慣と健康状態について情報を収集した。(平成29年度 3,200名)

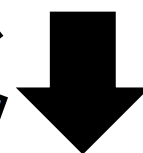
山形県広域ゲノムコホート(山形県コホート研究)形成の基本戦略と期待される成果

遺伝子

環境・生活習慣



個々のリスク
に合わせた
疾患予防法



創薬

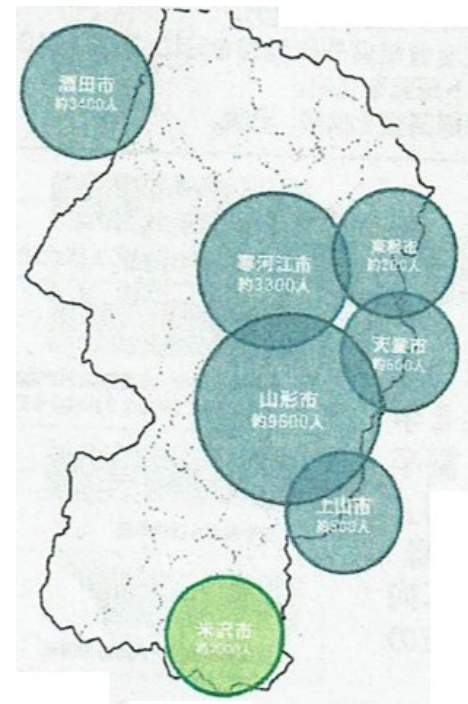
- 多因子疾患の病態解明と創薬研究
- テーラーメイド予防対策、先制医療への応用
- 医療体制整備による地域住民への貢献

山形県コホート研究

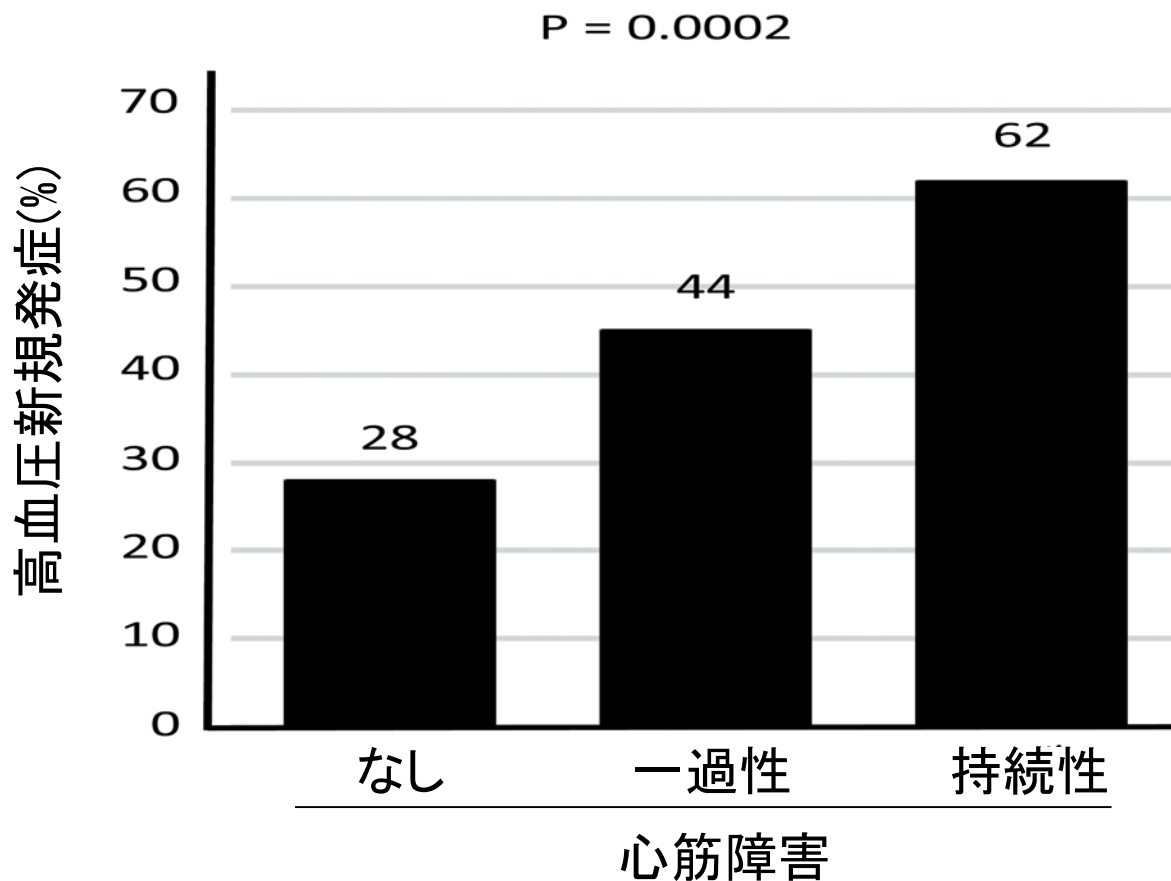
主任研究者：嘉山孝正教授

目標：生活習慣病につながる体質と生活習慣の組み合わせを明らかにし、個人にあった健康増進・病気の予防法を提案する

- 山形県内の特定健診受診者2万人が参加
- 体質、生活習慣、健診データを分析
- 様々な診療科と協力して、生活習慣病、がん、脳卒中、心臓病、認知症の発症のしくみを研究



生命予後に関連する因子を明らかにして、明日からの診療に役立てる 心筋障害が持続すると高血圧の発症が増加する(内科学第一講座)



Am J Hypertens. 2018 Apr 13;31(5):549-556.

地域に根差した疫学研究の成果

よく笑うほど、全死亡および心血管疾患の発症リスクが低下 (看護学科基礎看護学講座)

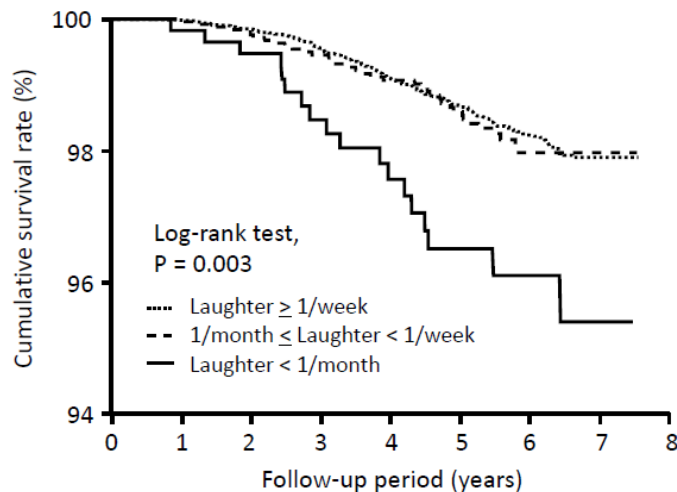


Fig.1. The association between the frequency of laughter and all-cause death

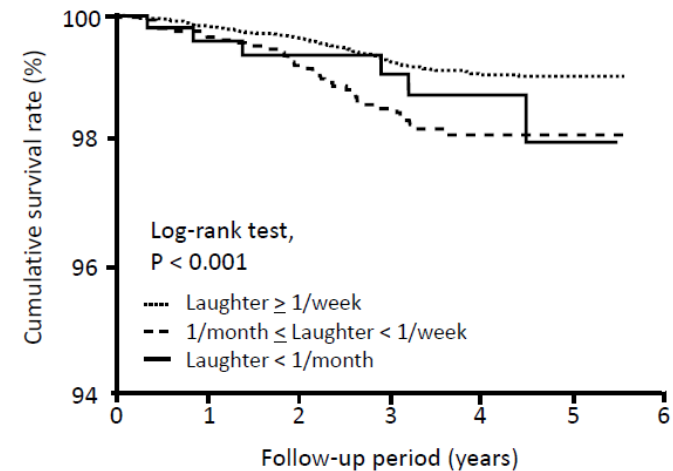


Fig.2. The association between the frequency of laughter and cardiovascular disease

Journal of epidemiology. 2019 Apr 06; doi: 10.2188/jea.JE20180249.

地域に根差した疫学研究の成果
歯の数が20本以下になる危険因子を明らかにした
(歯科口腔外科学講座)

歯みがきの回数が

1日0回の人 3.35倍

1日1回の人 1.76倍

1日2回の人 1.36倍

定期的な歯科通院をしていない人 1.70倍

年齢が1歳上がると 1.12倍

喫煙者は 1.67倍

高卒以下の学歴者は 1.35倍

歯が20本以下になりやすい⇒栄養状態の悪化につながる

Clin Oral Investig. 2019 Apr;23(4):1753-1760.

年度目標② 重粒子線治療施設への集患のため、協力に同意する診療科数200診療科を目指す。

達成状況② 北海道・東北6県・新潟県の大学病院及びがん診療連携拠点病院の82病院279診療科へ文書により協力依頼を行った。さらに、その中の大学病院及び主要ながん診療連携拠点病院には直接出向き、18病院72診療科から協力受諾を得た。

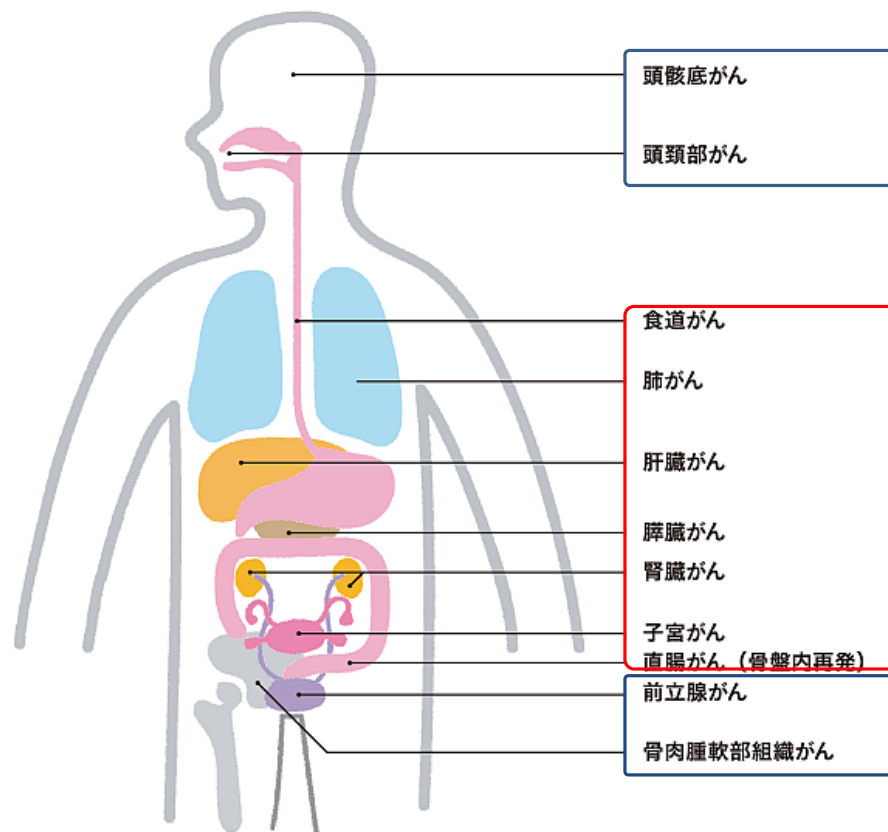
・集患の協力依頼を、北海道・東北6県・新潟県の大学病院及びがん診療連携拠点病院の279診療科へ実施するとともに、重粒子線治療の情報誌を全国3,000を超える病院長及び関連の診療科長へも発信している。今後も情報発信並びに協力依頼を継続して目標達成を目指す。



山形大学重粒子線治療の広域利用に関する診療科ごとの 連携依頼について ー北海道、東北6県及び新潟県ー

医療機関名	医学部長	病院長	整形外科	小児科	耳鼻咽喉科	泌尿器科	送り先数	左のうち 直接依頼数
国立大学 ※ (北海道+東北+新潟)	6	6	6	6	6	6	24	16
公立大学 (北海道+東北+新潟)	2	2	2	2	1	2	7	4
私立大学 (北海道+東北+新潟)	2	2	2	2	2	2	8	4
都道府県がん診療連携 拠点病院		5	4	4	5	5	18	8
地域がん診療連携拠点病院 + 地域がん診療病院		46	45	42	37	46	170	32
広域放射線治療遠隔カンファレンス システム連携医療機関 + その他		21	14	15	10	13	52	8
計	10	82	73	71	61	74	279	72

〈参考〉重粒子線治療の範囲



先進医療

公的保険適用

年度目標③ ゲノム解析に基づくオーダーメイド医療を推進するため、ゲノム解析に基づく診療100例を目指す。

達成状況③ がんゲノム病院に向け整備を行った。

- ・「山形バイオバンク」の整備(H30年6月より実施)
- ・検体管理システムの構築(H30年9月より実施)
- ・クリニカルシーケンスに基づいた実施のための体制整備(実施可能)
- ・遺伝子検査実施件数は約800症例



ゲノム蓄積バンク運用

1^来月^日個々に最適な治療確立

山形大隈氏は問を遣はした者がからずム（通信）情報、を集め、ゲノム医療研究に役立てる。山形大隈氏に「オハシ」の運用を月1に始める。山形市外の付属病院を含む国形外の医師、研究費が活用するとして、患者を治るせよ。データで治療の確実性を高める。促進しながらもして

従来の病院に代りて新、や治療が行われてきたが、作用により治療効果が顕著に表れてきた。この分指指に表れてきた。豊富なデータに基づき、個々の遺伝性疾患に最適な治療を指示。

収束手順は、初診時に看護師がパンについて説明

した後、同意を得られれば、研究目的の血液約700mlを採取する。付属病院の検体管理センターで保存し、ゲノム情報を蓄積する。

厚生労働省は、がんゲノム医療の中核拠点病院として東北大病院など10施設を選定。山形大や宮城県立がんセンターなど100カ所を連携病院と位置付けた。山形大は連携病院の中で最

山形は病氣発症の遺伝的要素と生活習慣の関係を解明する研究の一環で、健康な山形県民約2万人の試料を既に採取している。今後バンクで集める試料と比較研究できるように、大医学部での募山孝正参与は「副作用のない最適な治療につながら、患者の負担も減る。健康寿命も延びるだろう」と話した。

も早く生体試料を蓄積する体制を整えたという。

後バンクで集める試料と比較研究できるようにする。

遺伝子解析、個々に最適医療
ゲノム病院「構築へ」

今月中旬
サンプル集積開始

付属病院（山形市）の金診
山形医科大学は、同部
山形市に、ゲノム（全遺
傳情報）解析に基づいてオ
ンターゲット型治療に乗り出
す。ゲノム病院を標榜し
て、遺伝子解析に基づい
た治療で、それぞれの患
者に最適な治療や投薬など
の医療を提供していく。大
学病院では先駆的な取組
みで、患者の遺伝子のサン
プル集積を一月中旬にも始
め、同部
取り組み
者の血液

動される
気を診断
応じた標
薬などし
て同じし

たると、今回の「は、治療前に患者の遺体字を検査し

て、その病気に
し、その病気に
準的な手術や投
薬を対する治療
法を決定する。しか
し、患者の遺体字
の遺伝子の相違
が副作用が異なる
場合、異なるよう
に投与されるよう
に調整される。

な上で、既に確定している
遺伝子情報に照ら合わせ
ながら、患者個々の遺伝子
によって最適な治療法を導
き出していく。開拓がノム
医療に力を入れるのを示
しており、今後の治療の観
点から治療薬の有用性や副
作用の予見に力を入れる医
療が、本県でも標準的医療
として提供される。

同病棟にある別の診療
科の講堂では、既にがんゲ

ト作成し、がんや疾病のメカニズムの解明、新薬の開発、治療法の改善、患者の適正なケア、治療費の適正化が期待される役割を今後ますます果たして行く。今後は、独自に進捗している研究を進め、その成果を診療に反映させて、精度を高めていく。

最初のステップとして、1月中旬から全診療科の担当医が、電子カルテの基に患者を治療する際、研究対象となるかを判断し、遺伝子検査のサンプルを集積していく計画に、リストアップされたがんがんがん診療連携情報報を院内に配布し、患者への情報開示に徹底した。

同部署は、2013年3月に始まる電子カルテが治療にもとづくがん診療の中核医療に位置づけられ、専ら正担当は、全国の全病院に1次転ば、全診療科に普及したがん診療に取り組む。システムチェック体制を整え、患者のために最先端治療を提供していくと強調した。

年度目標④ 院内表示の国際化を完了し、入院案内等の病院内基本文書の英文化を進め、外国人来院患者15人以上を目指す(旅行中の病気、怪我等以外で、本院での診療を目的に来院した外国人患者2人以上を含む)。

達成状況④ 院内表示の国際化を完了し、病院内基本文書の英文化は引き続き検討を進め、外国人来院患者数は目標を達成した。

・院内表示を、日本語とともに英語を併記し、また、病院1階を“YUMeTOWN”コンセプトの基、デザインを一新し、明るく憩いの場所に整備した。

・一部の診療科の診療科独自文書について英語版を作成した。平成31年度も引き続き整備していく。

・外国人来院患者数は21名を数え、ほとんどが旅行中の病気、怪我等による来院であった。

・院内表示の国際化



診療科



受付案内



各診療科案内



診療科受付窓口

・国別外国人患者数(H30年度及び過去5年間延べ人数)

過去5年（H26～30）での国別外国人患者数		平成30年度
国籍（公用語）	人数	人数
中国（中国語）	21	3
台湾（中国語）	18	5
オーストラリア（英語）	10	1
アメリカ（英語）	5	1
シンガポール（英語・マレー語）	5	0
タイ（タイ語）	6	3
韓国（朝鮮語）	4	0
スウェーデン（英語・スウェーデン語）	2	0
フィリピン（英語・タガログ語）	2	0
マレーシア（マレー語）	3	1
キルギス（キルギス語）	2	2
カナダ（英語・フランス語）	1	0
ニュージーランド（英語）	2	1
香港（英語・中国語）	2	1
オランダ（オランダ語）	2	2
フランス（フランス語）	1	1
合 計	86	21

年度目標⑤ 平成31年度大学院入学者充足率100%を目指す。

達成状況⑤ 平成31年度定員充足率

【博士前期課程】看護学専攻:68.8%、先進的医科学専攻:20.0%

【博士後期課程】医学専攻96.2%、看護学専攻133.3%、先進的医科学専攻:22.2%

8月に秋季(10月)入学者選抜試験を実施し、引き続き定員充足に努める。

博士前期課程

専攻別	定員	入学者	不足数	充足率
先進的医科学専攻	15	3	12	20.0%
看護学専攻	16	11	5	68.8%
計	31	14	17	45.2%

博士課程・博士後期課程

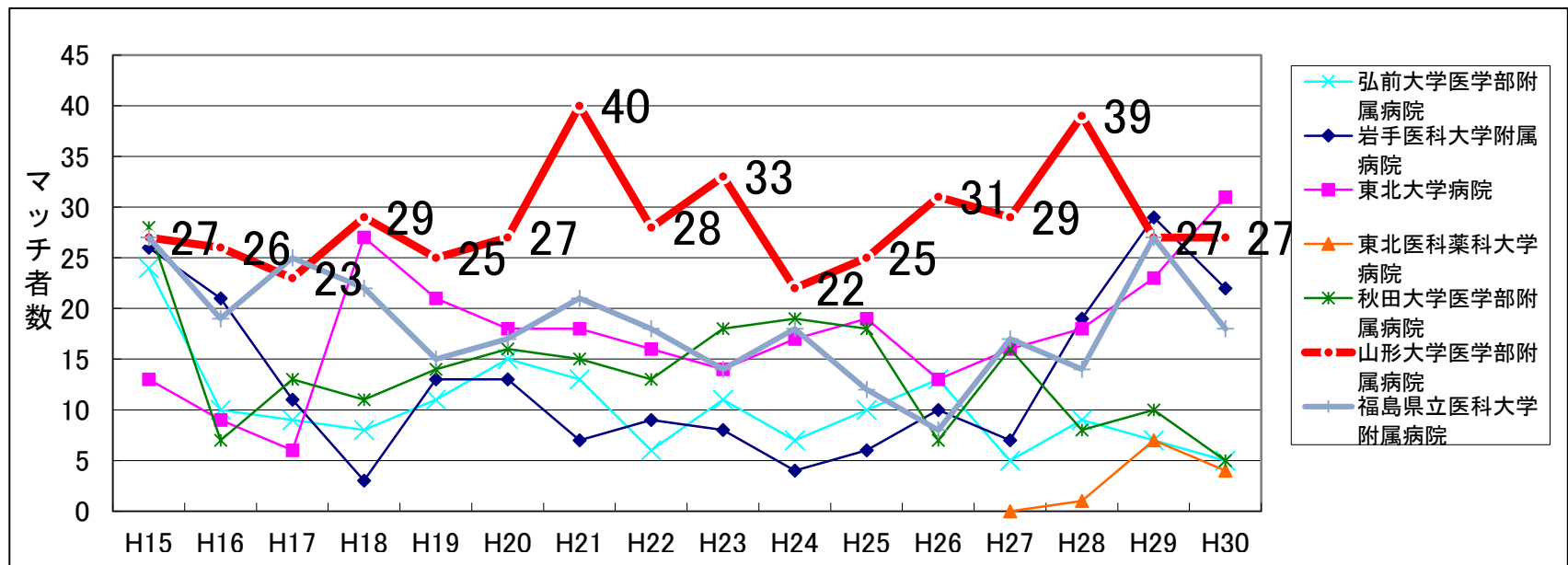
専攻別	定員	入学者	不足数	充足率
医学専攻	26	25	1	96.2%
先進的医科学専攻	9	2	7	22.2%
看護学専攻	3	4	(+1)	133.3%
計	38	31	7	81.6%

平成30年度内に3度入学試験を実施し、定員確保に努めたが、目標達成に至らなかった。8月に秋季(10月)入学者選抜試験を実施し、引き続き各種広報活動を行い定員充足に努めるとともに、より受験しやすい試験実施時期の見直し・検討等を行っていく。



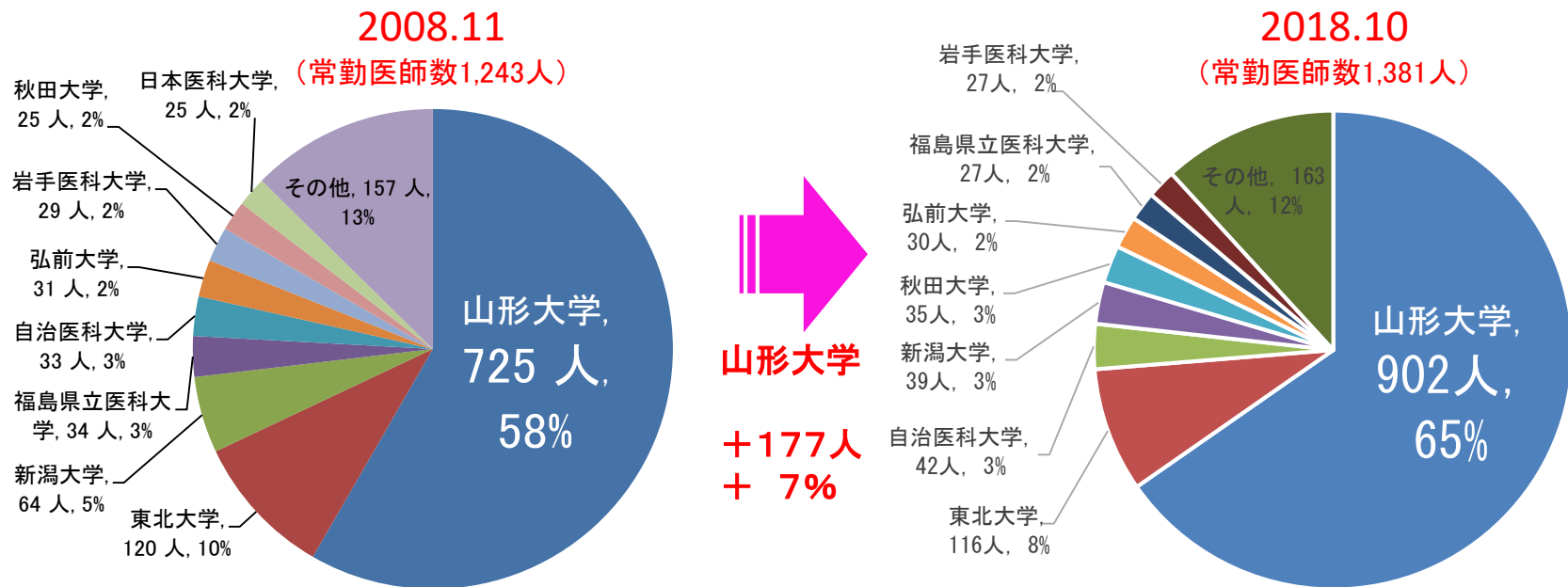
年度目標⑥ 山形県に定着の医師数増加を目指し、卒後初期臨床研修のマッチング数が他の東北6大学を上回る。

達成状況⑥ 本年度の卒後初期臨床研修マッチング数は27名で、東北7大学では昨年に続き2番目に多く医師を確保した。



循環型医師適正配置状況

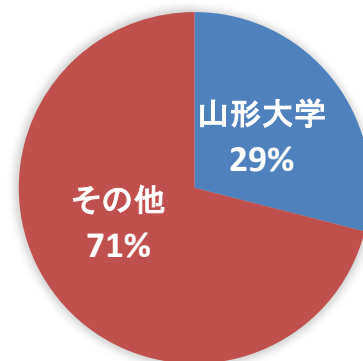
○県内病院勤務の常勤医師出身大学状況



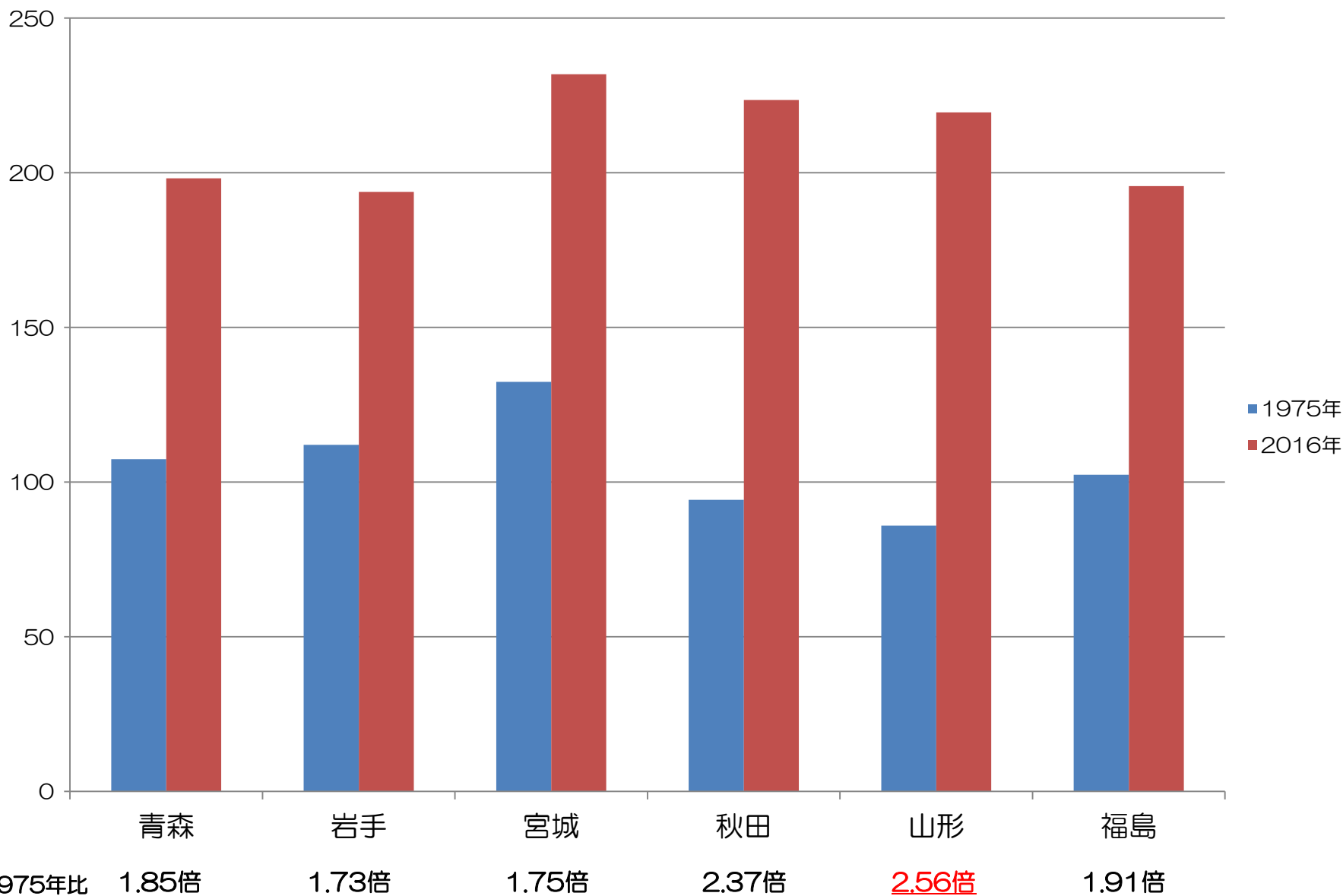
※山形大学蔵王協議会加盟39病院に調査

(参考) 県内開業医の出身大学状況

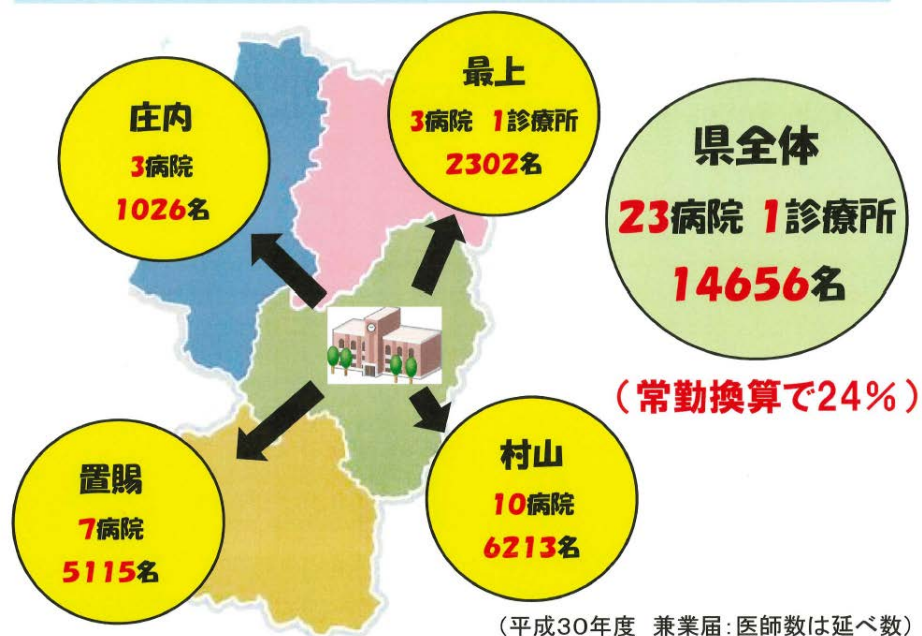
山形県医師会A会員(開業医、施設の長)676人のうち、山形大学医学部出身者は196人(平成30年9月30日現在)



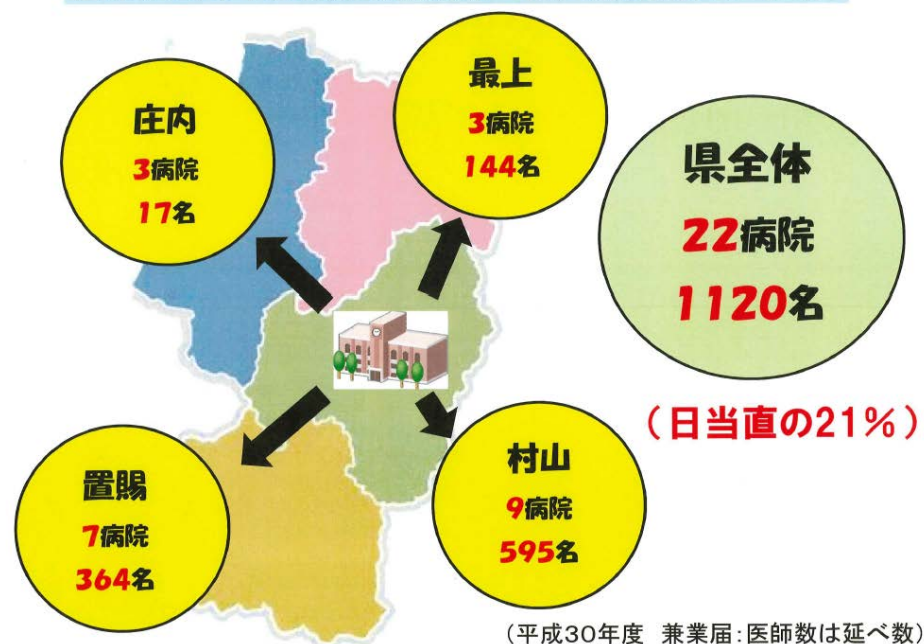
東北地方都道府県別 人口10万対医療施設従事医師数



山形大学から地域医療機関への診療支援(日当直を除く)



山形大学から地域医療機関への診療支援(日当直)



山形大学から市立・町立病院等への診療支援(日当直を除く)



山形大学から市立・町立病院等への診療支援(日当直)

